

## 第 43 回家族会

2019年3月9日土曜日に第43回家族会を開催致しました。  
参加者は患者さん、ご家族合わせて19名、スタッフ3名の計22名  
でした。

今回は『住み慣れた家での暮らしを支える訪問言語聴覚士の役割』  
をテーマに、言語聴覚士の南さんに講演していただきました。

講演の中では言語聴覚士として訪問リハで行う言語聴覚療法の内容をお話ししてくれました。対象  
者の方の状態にもよるそうですが、スピーチと嚥下練習  
を中心に行うそうです。

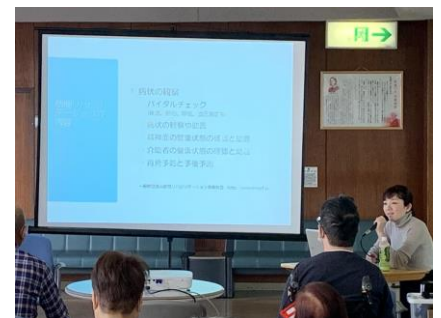
訪問リハビリを希望される方は、運動機能を高めるために希望される方が多いので、山梨県内でも  
言語聴覚士として訪問リハビリで活躍している方は少ないのが現状です。そんな中で南さんは院内  
の患者さんのみならず、地域の利用者さんに対して言語聴覚士として訪問でのリハビリテーション  
を提供しています。



南さんのお話の中で、すごく印象に残っている言葉があります。それは「家族と話がしたいから言語のリハビリをしたい」という利用者さんの言葉でした。私はPTなので、今まで運動機能を良くしたいという希望を持った方に関わってきました。語弊があるかもしれませんが、あくまでも主観的な思いですが、運動機能を良くしたいという思いは、どちらかという自分のことを優先しているように感じます。ですが、家族とコミュニケーションを取りたいから言語の訪問リハビリを受けたいという思いは、自分のことだけでなく、家族の思いも大切にしているように感じられました。

自分のためだけではないリハビリって、なんか良いなあと思いますし、言語聴覚士の南さんという存在が、利用者さんにご家族の間に立ち、双方の絆を繋ぐ橋渡しの役目を立派に果たしている。そんな想像が容易にできる講演でした。

訪問リハビリを僅かにしか経験したことのない私なので、知ったように話すのは間違っていると思いますが、訪問リハビリにおける私たちリハ専門職の役割は、身体機能や生活能力の向上だけでなく、利用者さんにご家族の間に位置し、双方を繋ぐ役割もあるのだと改めて感じました。そして、南さんはすごく良い関わりをしているのだとも。



わたくしはもう訪問リハには行っておりませんが、院内にいても患者さんにご家族の思いを繋ぐ橋渡しができるよう関わっていけたらと思います。